



公益財団法人 ベネッセ子ども基金

アニュアル レポート

Annual report

2018

報告対象期間：

2018年4月～2019年3月

特集 1



助成事業

平成30年7月豪雨が
私たちに教えてくれた
子ども支援のあり方

特集 2



自主事業

発達障がいのある子どもをもつ
保護者のための、
支援プログラム開発



未来ある子どもたちが 安心して自らの可能性を広げられる 社会を目指して

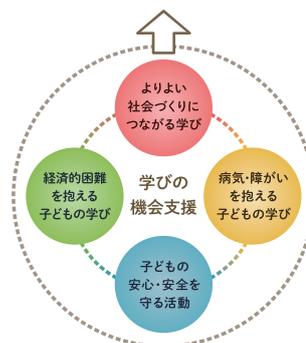
ベネッセこども基金は、「未来ある子どもたちが安心して自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指し、2014年10月31日に一般財団法人として設立、2015年4月1日に公益財団法人に移行しました。

教育を事業領域の柱とするベネッセグループが設立した財団として、子どもの学びの機会支援に取り組みます。子どもが安心して学べる環境づく

り、経済的困難や病気・障がいなど、学びに課題を抱える子どもたちの支援に取り組みながら、さらに、課題解決支援に留まらず、よりよい社会づくりを担う子どもたちを育む学び支援にもトライしていきます。

私たちは、子どもたちが自ら学ぶ、伸びようとする力を信じています。その力が十分に発揮できるよう、取り組みを進めてまいります。

子どもが自らの可能性を広げられる社会



自主

子どもの
安心・安全を
守る活動



自主

助成

重い病気や
障がいを抱える
子どもの学び支援



自主

助成

経済的困難を
抱える
子どもの学び支援



自主

よりよい
社会づくりに
つながる学び支援



助成

被災した子どもの学びや育ちの支援



自主

ベネッセこども基金自らが、事業を企画・実施し子どもたちを支援

助成

地域でテーマに沿った子ども支援に取り組む団体への助成を通じて、子どもたちを支援

財団設立丸5年を迎えるにあたって

子どもの学びの機会支援をミッションとする当財団は、自主事業と助成事業を組み合わせながら活動を行っています。

病院、大学、NPO、企業等、さまざまなセクターとの連携による学びのモデルづくりは、当財団の活動の特長です。2018年度は、知見を有する団体とともに、発達障がいのある子をもつ保護者の方向けのサポートプログラムの開発や、継続プログラムとして、パラリンピック教材や安全プログラムの開発・普及等、活動にも一層の広がりができました。

今後も自主事業においては、学びのプログラムやコンテンツの企画開発力といった強みを活かしてまいります。

助成事業においては、現場の実感や課題を把握しながら、よりよい助成のあり方を常に模索してまいりました。中でも「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助

成」については、担い手団体の事業基盤の強化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期視点での取り組みが必要と考え、2018年度より複数年助成に企画改訂いたしました。また、昨年夏に西日本を襲った豪雨の際の緊急助成をきっかけに、2019年度から、緊急時の子ども支援をより迅速に実施できるよう、しくみの見直しを行っています。

大きな変更の年となりましたが、今後も現場に寄り添った助成事業を続けていきたいと思えます。

2019年10月、設立丸5年を節目として、さらに今までの活動成果をより多くの方々に知っていただく機会を増やしていくとともに、活動成果から得た気づきを活かし、新たなテーマにも挑戦してまいります。

皆さまからの変わらぬご支援・ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。



公益財団法人
ベネッセこども基金
理事長
五十嵐 隆

国立成育医療研究センター理事長
東京大学医学部医学科卒業。
同小児科、東京大学大学院医学系研究科小児医学講座小児科教授等を経て現職。
日本小児保健協会理事、こども環境学会会長、元日本小児科学会会長など。

特集

1

平成30年7月豪雨が 私たちに教えてくれた 子ども支援のあり方



平成30年7月豪雨で被災した子どもの 学びや育ちの支援活動助成

支援対象：災害救助法が適用された自治体が所在する府県
(*)で被災した子ども

*高知県、鳥取県、広島県、岡山県、京都府、兵庫県、
愛媛県、岐阜県、福岡県、島根県、山口県(7/13時点)

募集期間：2018年7月25日～9月30日

助成期間：7月豪雨発生～2019年3月31日

審査：選考委員会設定の審査基準に従い、随時書類審査

応募数：61件 助成数：29件 総額：20,099,725円

2018年7月、西日本を襲った豪雨の際、ベネッセ子ども基金は、熊本地震の際の緊急助成の経験をもとに、助成の実施を決め、7月25日より受付を開始しました。計7回の審査を実施し、29事業

の助成を行いました。

この度、助成先である3団体をお迎えし、選考委員の村上徹也さんとともに当時の様子を振り返り、緊急時の子ども支援のあり方を確認しました。

「平成30年7月豪雨」 緊急助成概要

平成30年7月豪雨では、被害が広範囲にわたり、多くの子どもが影響を受けていると判断。避難生活などによって心身に影響を受けた子どもたちの、さまざまな生活・学習上の困難や心のケアなどに取り組む団体の活動を支援するため、緊急助成を実施しました。

◎ 緊急助成実施の経過

6月28日 ～7月8日	7月20日	7月25日	8月10日	8月23日	9月30日	2019年 3月31日
災害発生	助成決定 ・ 告知開始	受付開始	第1回分 団体決定 ↓ 助成金支払い	受付期間 延長決定	受付終了	活動期間 終了

◎ 助成の特徴

- ・ 助成申請前に実施した活動も遡って申請可能
- ・ 随時審査。2か月半で7回審査実施
- ・ 応募後、3週間程度で活動費用が得られる。
- ・ 夏休み後の子どもの状況変化を鑑み、受付延長

平成30年7月豪雨について座談会

(2019年5月8日実施／於：岡山)

3つの団体の方に、当時の様子や緊急時の助成のあり方をお聞きしました。
司会は、ベネッセこども基金の選考委員でもある村上徹也さんにお願ひしました。

楠木裕樹さん

団体名：
特定非営利活動法人
くらしき放課後児童クラブ支援センター



団体概要：岡山県内の放課後児童クラブの運営サポート団体。放課後児童クラブの運営もしながら、クラブ間の交流・連携や健全な運営、質向上を図る。

助成事業概要：倉敷市真備地区における学童保育サポート事業
倉敷市真備地区複数箇所での子どもの居場所支援、物品支給、食事支援、学習支援の実施

柏原拓史さん

団体名：
特定非営利活動法人
だっぴ



団体概要：中高生と大人の交流を行うことで、若者の多様な働き方、あり方を見つけるとともに、地域社会の人的資源の向上と地域活性化の実現を目指す団体。

助成事業概要：7月豪雨災害により被災した子どもたちへの支援情報の集約と発信事業
被災地区の子どもたちへの支援情報収集とサイトなどでの発信活動

柳原綾さん

団体名：
社会福祉法人
三原市社会福祉協議会



団体概要：三原市における社会福祉事業
その他の社会福祉を目的とする事業と、社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図る団体。

助成事業概要：遊viva学viva三原事業
三原市における被災地域を主体とした実行委員会形式（ネットワーク型）による活動。被災地の子ども・保護者の心のケア支援および生活支援、居場所支援、学習支援、イベントを実施。

司会

村上徹也さん

国立青少年教育振興機構
青少年教育研究センターセンター長
ベネッセこども基金助成選考委員



立教大学理学部卒業後、日本青年奉仕協会事業部長、米国ポイント・オブ・ライト財団研究員、日本福祉大学教授などを経て現職。トヨタ財団・パナソニック教育財団の被災地の子どもたちの学習支援共同助成における助成活動アドバイスや現地視察評価、日本財団子どもの貧困対策の外部評価などご経験多数。

局地的な被害、とにかく子どもたちを守るために立ち上がる！資金は後から

司会（村上さん）：昨年夏、どのような子ども支援をしたのか、簡単に活動の経緯と概要をお聞かせください。

特定非営利活動法人くらしき放課後児童クラブ支援センター楠木裕樹さん（以下 楠木さん）：今回、2つの学童施設が水没し、水没しなくても体育館が避難所になったり、グラウンドがごみ置き場になったりし、現場から子どもたちをほっとけない、なんとかしたいという声が上がリ、支援を始めました。行政からも子どもを預かる場所がないという連絡をいただき、職員の勤務を2時間前倒しにすればなんとか子どもが預かれると考え、8時～19時までの子どもの預かり支援をしました。現場からは、資金はどのくらい集まるのだろうかとか心配の声も上がりましたが、なんとかやりくりしようと思ったのです。

最初は水筒や文具、運動靴などの物品支援も行い、少し落ち着いて学習が気になる保護者の声にも応え、8月からは大学生が来てくれる流れを作り、週2回の学習支援の活動も行いました。

社会福祉法人三原市社会福祉協議会柳原綾さん（以下柳原さん）：三原市社会福祉協議会は7月10日に三原市災害ボランティアセンターを立ち上げました。そこで私もボランティアさんを派遣するという業務をチームで役割分担しながらずっと経過しておりました。

ところがその後、全市断水となり、事態はどんどん悪くなってきました。水がないだけでこんなに理性を保つことが難しいのか、子どももちろんですし、大人もそう感じていました。実際に家族の中も乱れました。大人はそれを子どもの前では見せられないということもとても大変です。

業務中、地域に子どもの姿が見えないことに気づきました。夕方になると、避難所の駐車場に設置された入浴支援の場に保護者と一緒の子どもたちの姿を見ることができました。休校からそのまま夏休みに入ったため、友だちと久しぶりに会い喜びあう子どもたちの姿を見ながら、地元のお母さん方と、子どもたちの遊び場を作ることはできないかという話ができました。スクールカウンセラ

ーの先生から「遊びは不謹慎じゃない。遊びを通じて、子どもの中で今の状況を受け止めながら、自分で受け止めていく」という言葉をいただき、母としても地域の住民としても、そして社協の職員としてもこの想いを形にしなくてはいけないと思ったのです。そこで災害ボランティアセンターの中に子どもの遊び場を作りました。

子どもたちの様子や保護者のニーズに合わせて支援も変化

司会：災害ボランティアセンターの中での子どもの遊び場という話は大変興味深いです。いずれの団体もとにかく子どもたちの様子や保護者のニーズに応じて、立ち上がって、という支援なのですね。だっぴさんは、直接的な支援ではなく、情報を届けるという形での支援でした。

特定非営利活動法人だっぴ柏原拓史さん（以下柏原さん）：僕らは学校での若者支援をしているので、普段から行政、特に教育委員会とのつながりがあり、200人くらいの大学生とも交流しています。災害時に行政に色々な情報がどんどん来られど、それに対応することが難しかったり、どういう支援をするかという指南書作りも、行政でここまで、民間でどこまでといった分けも難しかったりして、これらの情報整理に参加し、東京のNPOや大学も加わって連携組織に参加したことが始まりです。その中で、子どもたちへの支援をしたいという団体さんの色々な情報を集約して、それを情報が必要な家庭や子どもたちに届けるというその役割を担う必要性を感じ、情報を集めて発信するWebサイトを作るということに至りました。

ただ居場所ではなく、親子ともに安心して安全に過ごせる場所に災害時の子どもケアは、専門性が必要

司会：活動を立ち上げ続けるのには、たくさん課題があったかと思います。印象に残ってい

ることや苦労されたことなどもお教えてください。

楠木さん：居場所を作るといっても、はじめてのお子様を預かるには、安心安全の体制が必要で、ただ大人が居ればよいのではなくベテランの方が必要ですし、しっかりした研修もしなければなりません。被災後いち早く子どもたちの受け入れを開始し、子どもの緊急支援に詳しい国際NGOセーブ・ザ・チルドレンから緊急時の子どもへの対応について研修を受けた一定の質を持った200名規模の支援員が、夏休み終了まで同じ場所で保育することができたことは、被災して心に傷を負った子どもたちにとってよかったのではないかと思います。子どもたちが「災害ごっこ」「赤ちゃん返り」などの行動をとることなどは、わかっていなかったので、研修ができたのはよかったです。

柳原さん：遊ぶ場所は確保したけれど、“じゃあ何をどのようにして、子どもたちのケアができるか。”と、いうことを知りたくて、藁をもつかむ思いで、NPO法人さくらネット石井さんからの「お手伝いさせてくれませんか？」の声に「お願いします!」と即答し、ご協力いただくことができました。

大学生を派遣していただき、遊びのエリアや学ぶ場所を作ることができました。お母さんが安心して子どもを預けて復旧作業ができる状況を作るために、一時預かりをさせていただきながら、簡単な軽食を用意できるようにもしました。

また、地元のお母さんたちのネットワークとともに、セラピストが入っての活動もできました。大きな保育所も3メートル近く水没してしまったり、道路の寸断で保育所に1時間以上もかけて通わなければいけない状況があり、8月はボランティアセンターでできることを必死にしていました。その後、災害のために夏のイベントができなかったことや、先生方からもPTSDの予防への意見もいただき、6か月後の子どもたちの心も非常に大事になってくる話をお聞きし、思い出作りなどの活動についても検討を始めました。

こうして振り返ると、専門の知見がある団体や人とのネットワークがあったことがよい活動につながったと思います。

司会：緊急時には、物理的にも精神的にも安心安全な場所が確保できることはとても重要です。それはもちろん子どもだけでなく、保護者に



1



2



3



4



5

- 1：みんなで昼食：調理室で作った温かい昼食を「いただきます!」(a)
- 2：お遊びキャラバン隊in南方:三原市内の各地域で子どもの遊び場、学び場を開催 (b)
- 3：小佐木島での宿泊キャンプ:林間学校が中止となり、その代替として実施 (b)
- 4：クリスマスパーティー:市内で自粛している冬のイベントの代替として実施。(b)
- 5：情報発信サイト「うったて」子ども特集 (c)

p3上：2018年7月8日岡山県倉敷市真備地区 (d)
p3下：日本ヨーヨー協会による出前講座の様子 (a)

- (a) 特定非営利活動法人くらしき放課後児童クラブ支援センター提供
- (b) 社会福祉法人三原市社会福祉協議会提供
- (c) 特定非営利活動法人だっぴ提供
- (d) 共同通信提供

とってもです。

そして、どちらの団体もきちんと専門家と連携をとり、ネットワークを活用され多くの方々を巻き込みながら活動されている様子がわかりました。

緊急時の情報の整理発信の期待は大きい、実施には課題も

柏原さん：情報整理、発信で苦労したのは、刻々と変わる情報に対応するのが大変だったというのがあります。紙媒体も予定していたのですが、やはり制作のタイムラグがありますし、情報の劣化と配布の課題もあってデジタルのみで対応しました。

もう1つは、人がいないという問題です。有給でお願いして情報収集を手伝ってくれる人を探そうという人々に声をかけたんですけど、もう声をかけられる人はすでにその人たちで支援活動を行っていることもあり、なかなか難しかったです。

司会：情報の整理というのは、非常に重要な課題と感じています。SNSの活用などの情報発信というのは、今後ますます重要ですね。

楠木さん：倉敷では「倉敷eこねっと」という学校関連の緊急情報を保護者に伝えるしくみがあり、活用させていただきましたが、情報を集めたり発信したりするのは、なかなか一団体ではできないので、ありがたいと思いました。

子どもを取り合わず、また地域の力を尊重した復興を

司会：災害時の様子をさまざまお話いただきましたが、この災害支援を通して得た気づきや学び、逆にこれはしてはいけないということがあれば、ぜひ教えてください。

柳原さん：昨年の災害では、大きな経験をしました。さまざまな支援の方が来てくださるのですが、とにかく「子どもを取り合ったらいけない」とい

うことはとても気にしました。大人も理性をなくすという状態も結構あるのです。

また、地域ごとに違ったやり方があるので、地域力が強いところにはあえて入らないという判断もしました。「復興は被災した人々をお客様にしてはいけない。自分たちの生活を自分たちの力で取り戻す。」それに寄り添うのが私たち社協の役目だと強く感じました。

柏原さん：県外で活動されている団体さんが子どもの取り合いになりかねない、それだけは絶対に避けてほしいから、そうならないように最初の流れだけ作りたいという思いもあって、組織を作りました。しかし、子ども支援の団体が「居場所を作ってあげる。でも来ない。だから人集め」というようなおかしな状況になることがあるので、社協さんがボランティアセンターでというのは興味深いと思いました。

楠木さん：ボランティアセンターの中で子ども支援というのは、非常にいい取り組みですね。全国の社協に影響を与えた感じがします。今回の事例は、何かあったときに地域に持ち帰りたいと思いました。

司会：私も今回驚きました。大きな災害が起こったときには、災害ボランティアセンターが立ち上がりますので、ほかの地域でも三原市の「災害ボランティアセンターを通じて子どものサポートをする」ということを知っておいていただければ、私たちも支援ができます。多くの場所でこの事例を話したいと思います。

自分たちの役割やできることを考え、緊急時の新たな活動も

司会：最後に、ベネッセこども基金の緊急助成への評価や期待をお願いいたします。

柏原さん：SNSを通して、情報を集めたいので協力してくださいという案内を関係者だったり知り合いに発信するので、活動はほとんど人件費になります。人件費に使えるし、しかも遡って使えると伺って、応募しようということになりました。

間接的な業務になかなか助成金は出ないので、この2点はありがたかったです。

柳原さん：とても書きやすい申請書であると感じました。「支援対象とその現状」「支援の内容・方法（いつ・どこで・何を実施するのか）」といった申請の項目が、自分たちがやりたいことをそのまま書くという形でした。8月まで一生懸命やった後、それを継続してやろうということに関係者のネットワークで振り返ったときに、どのような活動にしていけるかある程度の見通しを持ちながらの申請だったものですから、比較的書きやすかったです。

自分たちの思いがきちんと整理できていたので、活動をしていくときに、申請書を再度確認したりもしました。

楠木さん：こういう場合はいかがでしょうか。今回全国からたくさんの方の支援を受けました。この先どれだけお返しができるのかということを考え、

実は、そういった体制を作ろうとここ数か月準備してきました。どこかで災害が起きたときに、子どもを支援する人材を、2週間から3週間～2か月の間に、少なくとも2、3人派遣できるだけの体制を作ろうとしています。そのためのしくみを検討して来年度くらいからスタートできるのかなと思うのですが、そういうものもベネッセこども基金の助成を活用できれば、市内だけでなく全国の支援ができるのですが。

司会：素晴らしい取り組みですね。被災地への支援員派遣も、もちろんベネッセこども基金の緊急支援の対象になります。不測の事態に備えて、助け合う関係ができるのは、ベネッセこども基金も非常に望むところです。

今回たくさんのお話が伺えました。助成金が有効に使われ、緊急時の子どもたちに支援が届いたことがわかり、また、この先の支援のヒントもいただきました。ありがとうございました。

座談会を終えて

皆様のお話を伺い、災害時の子ども支援において重要な点を整理しました。

- ・子ども専門の知見が必要であり、そのために団体や人との連携をすべき。
- ・子どものケアの前提としての保護者ケアも重要。
- ・子どもの取り扱いにならないよう、その地域のニーズをよく把握すべき。
- ・被災した人々がお客様にならず、地域の力を尊重して行動する。

上記に加えて、緊急時の情報の集約・発信も大変重要であり、そこを担う活動を支援することの必要性も感じました。これらの視点を持って活動する団体を今後も助成の形で支援していきたいです。



2019年度からの災害時の緊急助成



「熊本地震」「平成30年7月豪雨」の災害緊急助成の経験を踏まえ、2019年度より、災害を起因として困難な課題を抱える子どもの支援を、緊急時によりタイムリーに行えるような枠組みに変更しました。災害が起こった際に、すぐに助成の募集が行えるように、年度当初に応募要項を決定・公開しています。

※災害発生の際に、助成対象となるか都度決定し公表します。





発達障がいのある 子どもをもつ



保護者のための、 支援プログラム開発

療育の専門家であるNPO法人ACOとタグを組み、発達障がいのあるわが子とどう向き合うかを考える保護者向けのワークショップを開発・実施しました。

発達障がいのある子どもをもつ保護者には、子育ての悩みや不安、ストレスが多くあります。また、

子どもに障がいがあることに気づかず悩んでいたりと、自分で何とかしようとして専門機関への相談が遅れたりする場合も。そこで、保護者からのSOSをキャッチし、適切なサポートができる支援プログラムを開発しました。地域に根ざした形で継続的に支援が続いていくことを目指しています。

事業の枠組み

2016年から始まった、発達障がいのある子どもへの支援プログラム「音と光の動物園」は、音楽や映像を駆使して五感を刺激し、子どもの感性を引き出すことができると大好評。また、保護者向けにも交流の場を設けたところ、「不安や悩みを話すことができ心強かった」と高いニーズがありました。そこで2018年、保護者向けの支援プログラムとして独立したワークショップを新たに開発。「子どもの支援」「保護者の支援」という両輪でのサポートが実現しました。

発達障がいのある子どもの支援プログラム …… 2016年から引き続き実施

「音と光の動物園」ワークショップ

動物をかたどったペーパークラフトづくりやデジタルアート、打楽器体験などで、子どもの五感に働きかけながら学びの幅を広げます。



発達障がいのある子どもをもつ、保護者の支援プログラム …… 保護者サポートのニーズから2018年新たに開発

「自分を知り、やさしい子育てをする」ワークショップ(全3回)

専門家による発達に関するレクチャーやワークを通じて、子どもとのよりよい関わりをサポートします(詳細は次ページより)



INTERVIEW

事業の背景

保護者の方が笑顔で子育てできるお手伝いを



NPO法人 ACO (アントワープ カウンセリングオフィス) 代表
 臨床心理士 野中友美先生

発達障がいのあるお子さんを育てるには、さまざまな悩みや不安がつきものです。一生懸命やっているのにうまくいかない、自分を責めてしまう、周囲の理解が得られない…。真面目にがんばればがんばるほど、追い込まれて苦しくなってしまうという現状があります。そんなとき支えになるのは、SOSが出せる地域とのつながり。専門家や、同じ悩みをもつほかの保護者と気持ちを共有しながら、子育てのヒントを学び、考え方や行動をどう変えていけばよいのか、一緒に模索していきます。保護者の方が心にゆとりをもち、楽しみながら子育てができること。それは必ず、お子さんの笑顔にもつながっていきます。悩んでいる保護者をひとりにしない。それは社会の使命だといえるでしょう。

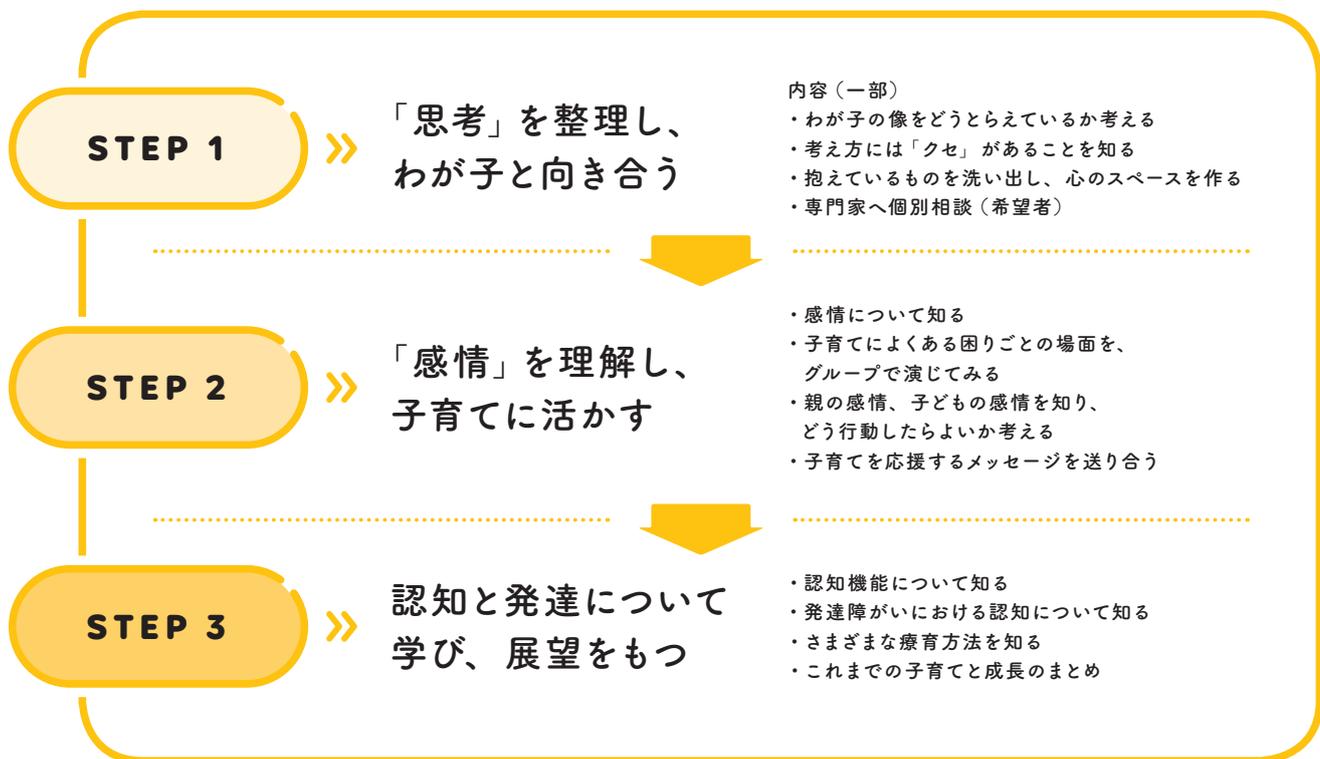
保護者支援プログラムの内容と特長

⇒ 「自分を知り、やさしい子育てをする」ワークショップ（全3回）

各回のワークショップには、それぞれテーマがあります。第1回では、保護者のかかわりの大切さを理解するとともに、悩みや不安でいっぱいの中を整理するところからスタート。第2回では、感情について客観的な理解をし、日々の生活の中でどう行動したらよいかを考えます。第3回

では、今後の療育や子育てについて具体的に考えるための手法を学びます。最後には一人ひとりにプログラム修了の認定証をお渡しも。少しずついいいに理解を深め、自分らしくやさしい子育てを取り戻していくことができるプログラムになっています。

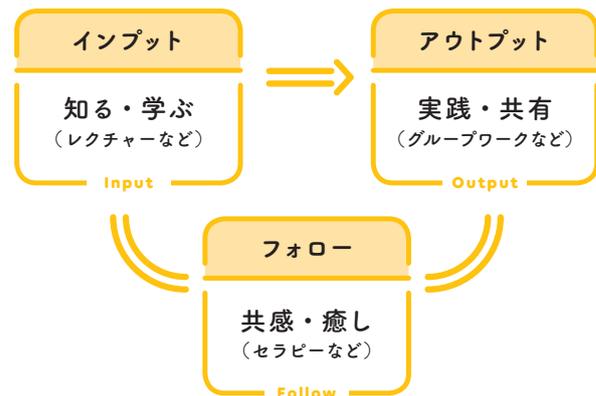
自分らしくやさしい子育てを取り戻す3つのステップ



実践やセラピーも含めた学びのサイクル

各回のワークショップは大まかに、「レクチャー→グループワーク→セラピー」という流れで進んでいきます。講義を聞いて知識を学ぶインプットの時間、子育てを振り返り、気づいたことをほかの人と共有するアウトプットの時間、頭をクリアな状態にし、ポジティブな気持ちを引き出すセラピーの時間。

この3つをバランスよく取り入れることで、各回のテーマについて深く理解し、子育ての行動に活かしていくことができるよう設計しています。



ワークショップの現場より



いらないものを
風船に込めて、一気に放つ！
わが子と向き合う
心のゆとりを取り戻せた。

子育て中の保護者の頭の中は大忙し。気になっていることを紙に書き出し、手放せるものはないかを考えます。抱えていたものを風船に込めてふくらませたら、みんなで飛ばします。頭の中のスペースを整理し、ストレスを軽減します。

子どもの役になりきって
演じたら、
見えていなかったものに
気づくことができました。

日常でありがちな「困った場面」を、保護者役・子ども役などに分かれてドラマのように即興で演じます。役割を交代して演じたり、観察者が感想を述べたりすることで、保護者の気持ち、子どもの気持ちに気づき、どう行動すればうまくいくのかを考えます。



グループワークで、気づきや
思いを共有。
ひとりじゃないと思えたら、
肩の荷が少し下りた。

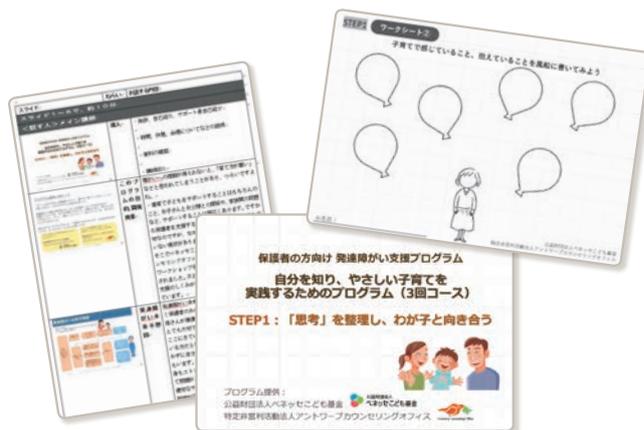


各回とも、話し合いや発表の時間を多く設けています。自分やわが子のことを改めて振り返り言語化することで、現状を客観的にとらえ、今後の子育てについて前向きに考えることができます。また、同じ悩みをもつほかの保護者や、心理の専門家とコミュニケーションをとることで、地域でのつながりを作ることができます。

事業の今後の展開

◎ 保護者支援の輪を広げるため、プログラムをパッケージ化

発達障がいのある子どもをもつ保護者の方のサポートは、全国的にまだまだ十分とは言えません。そのニーズにできる限り応えられるよう、今回開発した保護者支援プログラムを、スライド資料やシナリオ、ワークシートのセットとしてパッケージ化を進めています。



▲ パッケージ（一例）

◎ 各地で活用してもらえろ ルートづくりを

2019年は引き続き、このパッケージ化した保護者支援プログラムを、全国の自治体やNPO法人、任意団体などで非営利の勉強会のツールとして使っていただけるようにルートを作っていきます。全国どこにいても、それを必要とする人が、必要なときに、学ぶことができること、そして、集まった人々に「つながり」ができ、支えあえることを目指しています。



▲ 活用ルート（イメージ）

発達障がいについての「知りたい!」「困った!」に応えるホームページ



エール & リンク

発達障がいに関する
情報提供サイト、
エール & リンク



<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/yellandlink/>

コンテンツの一例

- ・発達障がい 対応事例集
- ・相談先一覧
- ・サポートに取り組む方々へのインタビュー など

保護者、支援者の
情報発信基地となれるよう、
情報の拡充に
取り組んでいきます。

2018年度活動概況と2019年度の方向性

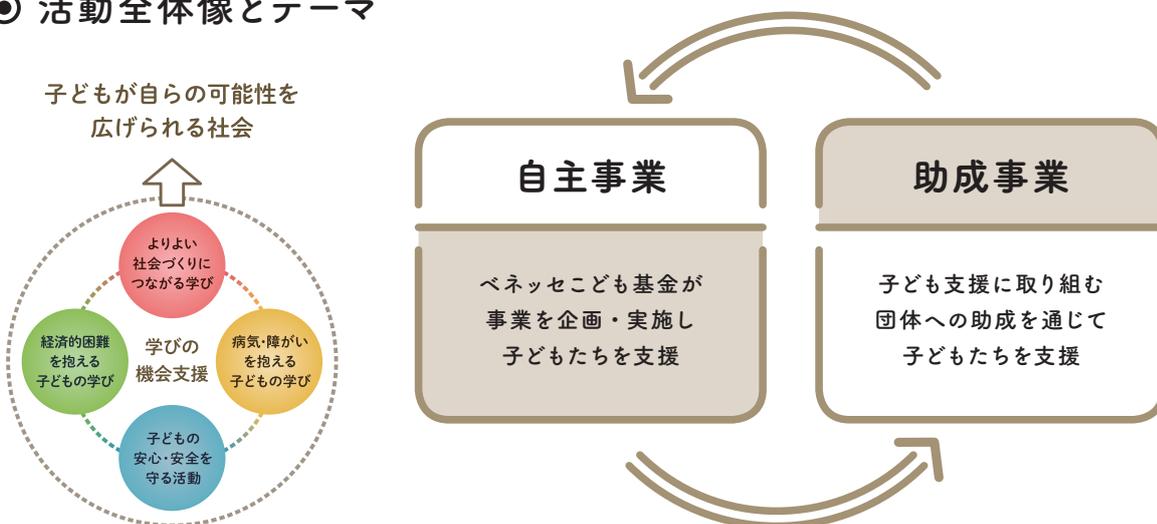
2018年10月、ベネッセこども基金は設立丸4年を迎えました。

自主事業においては、これまでに開発してきた各テーマごとの学びコンテンツやモデルケースをより広く認知・普及していくため一歩踏み出した1年になりました。

また助成事業においても、多様性や環境変化を踏まえた新しい助成プランをスタートすることができました。

2019年度は、設立5年という節目を迎えるにあたりこれまでの成果をまとめ、より活動内容を認知していただけるようにしていきます。

◎ 活動全体像とテーマ



助成事業を通して浮かび上がった団体の共通課題について、自主事業として解決策やノウハウを広めるなど「助成事業」と「自主事業」を組み合わせながら子どもたちを支援しています。

活動テーマ	自主事業	助成事業
◎ 子どもの安心・安全を守る活動	○	
◎ 経済的困難を抱える子どもの学び支援	○	○
◎ 重い病気や障がいを抱える子どもの学び支援	○	○
◎ よりよい社会づくりにつながる学び支援	○	
◎ 被災した子どもの学びや育ちの支援		○

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのためには、「子どもが自分自身を守る力を高めること」と「地域の見守り力を高めること」の両輪が必要です。

専門家とも連携し、地域で活動する方々が直接指導できる教育プログラムの開発や、活動する方々のサポートに取り組んでいます。

◎ 教育プログラムの開発・普及

防災

保育園・幼稚園向け



防災教育紙芝居
「じしんのときのおやくそく」

配布数
のべ **10,000** 園

防犯

小学校
低学年向け



子どもの安全・安心ハンドブックと
安全教室実施パッケージ

冊子配布数
のべ **13.2** 万部

情報モラル

小学校
中・高学年向け



初めてのスマホ安心ガイドブックと
安全教室実施パッケージ

冊子配布数
のべ **11.5** 万部

※配布数はすべて2019年2月時点

◎ 情報発信でのサポート



安全力の向上を目指す
方への情報発信サイト
「子どもの安全サポーターズひろば」
<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/anzen/index.html>

左記教育プログラムのお申し込みはこちらから！



2019年度は

より多くの方に活用いただけるよう、普及拡大を目指します。情報モラルについては、子どもたちを取り巻く環境変化やより新しい情報に即した内容に更新していく予定です。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

日本において深刻化する社会課題である「子どもの貧困」に対する取り組み。主には助成事業を通じて、地域での活動を支援するとともに、自主事業として、助成団体同士の

ノウハウ共有やネットワーク化から見えた団体共通の課題解決のモデルづくりにも取り組んでいます。

支援人材の育成

ユースソーシャルワークみやぎ

人材育成計画の立案・実施
コミュニティ創出

連携

公益財団法人 ベネッセこども基金

ノウハウを全国の団体へ共有

現場を担う若手人材の確保と育成が多くの団体の共通課題であると認識。「ユースソーシャルワークみやぎ」との共同事業として、全国の団体へ取り組み内容や知見を共有していく。

NEW

学びの質向上

地域の支援団体

学び直し教材を活用した支援 連携 学びに向かう意欲を向上させる知見

公益財団法人 ベネッセこども基金

全国展開する環境づくり

最適な教材とともに、学びに向かう意欲や基礎学力の向上について、選考団体と連携し、団体の保有する解決アイデアやノウハウを他団体が活用できるコンテンツとして開発。

NEW

支援現場の課題の社会発信

公益財団法人
ベネッセこども基金

調査
回答

社会的な議論環境づくり

全国の支援団体

子ども支援の現場や担い手が抱える課題の現状調査を実施。エビデンスをもとに課題提起し社会全体の理解と議論環境をつくる試み。

2019年度は

各テーマごとにコンテンツの創出および実施を行い、社会全体に発信できるようにしていきます。

重い病気や障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、有効な学びのモデルづくりや情報提供などを行っています。

院内学級での学び支援プロジェクト



東京都内の特別支援学校4校と連携し、分身ロボット OriHimeを活用した学び支援プロジェクト

特別支援学校・校長会での成果発表など、社会発信も!



発達障がいのある子どもと保護者の学び支援

情報提供による支援



発達障がい支援サイト
メール&リンク



子ども向け支援



発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」

保護者向け支援



自分を知り、やさしい子育てを実践するためのプログラムを開催
→P9~13掲載

2019年度は

引き続き、有効な学びモデルづくりや情報提供などを行いながら、都内および地方での展開をしていきます。また、保護者支援プログラムをさらに普及していきます。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

“ソーシャルリーダーシップ”=「地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一員としての役割を果たすことができる力」であり、未来を生きる子どもたち全員に必要な能力であると定義。先進的な取り組みがある団体と連携しながら、よりよい社会をつくる子どもたちを育てていきます。

親子でチャレンジ国際理解！ ちびっこおえかきコンテスト



2018年度結果
応募数：2,083作品
参加園：121園
表彰式には約150名の園児や保護者などが参加

認定NPO法人グッドネーバース・ジャパンと共催で実施している、就学前の子どもたちが保護者と一緒に発達途上国の問題について学ぶ教育プログラム。

国際パラリンピック委員会公認教材 『I'm POSSIBLE』日本版



国際パラリンピック委員会公認教材
『I'm POSSIBLE』日本版
全国の小中高特支学校
38,000校に配布

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会/日本財団パラリンピックサポートセンターと連携して、共生社会を目指す教材を開発。

高校生英語ディベート大会



▲ 2018年度日本代表団のみなさん

世界大会は2018年7月17日～25日に
クロアチアのザグレブで開催

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟(HenDA)の国際委員会と共同で、日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営。

2019年度は

2018年度までのテーマを継続して実施し、さらに当団体の強みを活かせるテーマでの新規の取り組みも検討していきます。

助成事業では毎年「重い病気を抱える子どもの学び支援」「経済的困難を抱える子どもの学び支援」「被災した子どもの学びや育ちの支援」の3テーマについて、各地域の個々の団体の活動支援を行っています。また、助成による支援に留まらず、団体同士の連携づくり支援やノウハウ共有などのサポートにも取り組んでいます。

〈交流会〉2017年度募集・2018年度活動助成団体

助成団体同士の横のつながりづくりや、各団体の強みやスキルの情報交換を行っていただく目的で、【重い病気】の助成団体同士で、【経済的困難】と【災害】の助成団体（合同）で、交流会を毎年開催しています。活動期間の期中で開催することにより、他団体の活動について知ることができ、自団体の活動のヒントを得ていただけるようにしています。

重い病気

2017年度募集・採択し2018年度に活動を行った全8団体で交流会を実施しました。生命を脅かす病気を伴う子どもとその家族の支援を行っているTSURUMI子どもホスピスと小児がんをはじめとした医療的ケアが必要な子ども・若年成人とその家族が過ごす施設の運営を行っているチャイルド・ケモ・ハウスを見学させていただきました。

実施日

2018年7月23日～24日

1日目：TSURUMI子どもホスピス
見学および各団体の活動報告
2日目：チャイルド・ケモ・ハウス
見学会

- ・TSURUMI子どもホスピスは、子どもたちが「楽しいところ」と感じるためのデザインや工夫がたくさん詰め込まれている空間。
- ・「チャイルド・ケモ・ハウスのような施設がなぜ必要なのか」の講義を受け、課題についての意見交換を実施。



経済的困難

& 災害

2017年度募集・採択し2018年度に活動を行った、【経済的困難】12団体、【災害】8団体の計20団体で2つの日程に分けて交流会を実施しました。各団体の活動報告やテーマに沿って自由に意見交換を行うプログラムで知見やノウハウの交換をしました。

実施日

① 2018年10月29日～30日

参加団体：10

② 2018年11月8日～9日

参加団体：10

1日目：団体ごとに
活動内容説明および質疑応答
2日目：テーマごとに意見交換会

- ・団体同士が相互に活動を知り、知見やノウハウを交換。同テーマで活動する団体同士ならではの悩みや課題を共有した。
- ・「普段は子育て支援の団体とのつながりが多く、経済的困難者の支援について今まで知る機会がなかったため考えさせられました。」など各参加団体からお声をいただいた。



2018年度募集および決定助成団体 と 2019年度助成事業の方向性

重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

重い病気などによって学びへの意欲向上や学習支援などが必要な子どもたちに対して、学びの機会の提供や学習環境づくりなどの活動に取り組む団体を支援します。

2018年度募集概要

- ・募集期間：2018年7月20日～2018年9月15日
- ・助成対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日
- ・応募数：26件 ・採択事業数：7件 ・金額：計8,402,753円

助成先団体名	申請事業名	都道府県	助成金額
一般社団法人 大阪科学技術センター	院内学級への出前理科実験教室の充実	大阪府	1,007,590
特定非営利活動法人 かごしまコネクションズ	退院後の児童・生徒を対象とした学習支援事業	鹿児島県	543,763
一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト	『WOW!働く体験』：病気の子どもの可能性を拓く、 職業体験事業の推進	大阪府	1,150,000
特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス	小児がんや難病の子どもと社会をつなぐ 『かえっこバザール』の開催	兵庫県	1,725,000
認定特定非営利活動法人 ポケットサポート	病気を抱える子どものICTを活用した 学ぶ意欲支援事業～中間支援～	岡山県	650,000
特定非営利活動法人 み・らいず	ホームページとSNSを活用した 医療的ケア児についての情報発信 保護者向け相談会、医療的ケア児と きょうだい家族対象イベント支援者育成	大阪府	1,668,000
認定特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	入院中の学習支援及び復学支援のための対面 ないし遠隔地に対応可能な支援者育成事業	愛媛県	1,658,400

2019年度は



本領域テーマの社会的認知をより高められるよう、有力な助成団体と連携し社会発信を強化する予定です。

2018年度募集および決定助成団体 と 2019年度助成事業の方向性

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

経済的困難を抱える子どもたちへの学びの機会の提供や学習環境づくりなどの活動に取り組む団体を支援します。

子どもたちを取り巻く課題がますます複雑化する中で、支援者もさらに対応力を高めていくことが求められます。地域によって多様な子どもの課題に対し、支援

を持続可能なものにしていくためには、担い手団体の事業基盤の強化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期視点での取り組みが必要と考えています。そのため、2017年度までの単年度型助成を変更し、2018年度より、中長期視点で取り組む事業に対し、最大3か年での助成を行うことにしました。

2018年度募集概要

- ・ 募集期間：2018年11月16日～2019年1月7日
- ・ 助成対象期間：2019年4月1日～2022年3月31日（最大3年間）
- ・ 応募数：67件 ・ 採択事業数：7件 ・ 金額：計16,408,000円

助成先団体名	申請事業名	都道府県	助成金額
特定非営利活動法人 アスイク	居場所のない子どもたちのフリースペースの 継続性・支援力を高めるための自治体との協働事業	宮城県	3,000,000
認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・commons	外国籍の子と保護者が相談と学習の機会が得られる地域の支援 システムを学校・行政・企業と連携して構築する	茨城県	2,200,000
特定非営利活動法人 シェイクハンズ	生きる力を育む学びの場と尾張北部地域の 子ども支援ネットワークづくり	愛知県	2,340,000
特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎	どの子どもも社会参画ができる組織基盤整備事業	福島県	1,458,000
一般社団法人 栃木県若年者支援機構	学習支援教室に来ることができない子どもたちへの 訪問型学習支援と学習支援人材育成事業	栃木県	2,840,000
特定非営利活動法人 HUG for ALL	児童養護施設でくらす子どもたちの「生きる力」育成事業	東京都	2,570,000
認定特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター	はままつ子どもの学び支援& セーフティネット強化事業2019	静岡県	2,000,000

2019年度は

新しい枠組み開始から2年目を迎え、複数年助成の成果をより高められる運用を目指します。

被災した子どもの学びや育ちの支援活動助成

2018年度は7月に発生した西日本豪雨被害に対して緊急助成を実施しました。

◎「平成30年7月豪雨」で被災した子どもの学びや育ちの支援活動助成

- ・募集期間：2018年7月25日～2018年9月30日 ・助成対象期間：災害発生～2019年3月31日
- ・応募数：61件 ・採択事業数：29件 ・金額：計20,099,725円

※被災地の環境変化の影響を受け、申請事業の未実施・縮小などが生じたことによる助成金の返納もありました。

助成先団体名	所在地	申請事業名	活動地域	助成金額
あそび屋。おせと	岡山県	西日本豪雨災害子育て支援 自由あそびのひろば	岡山県 岡山市	294,012
子どもの心と身体の成長支援ネットワーク	東京都	おやこあそびのひろば	広島県 呉市	380,000
特定非営利活動法人 ぐらしき放課後児童クラブ支援センター	岡山県	倉敷市真備地区における学童保育サポート事業	岡山県 倉敷市	1,000,000
一般社団法人 やかげ小中高こども連合YKG60	岡山県	小田川流域に住む小中高生の学習・生活支援	岡山県 矢掛町 倉敷市	500,000
特定非営利活動法人歩	愛媛県	大洲市の障がいのある子どもの居場所づくり	愛媛県 大洲市	780,000
災害支援ネットワークNPO かけはし	岡山県	避難所および仮設住宅における、子どもや高齢者の心のケア、運動不足の解消	岡山県	653,000
岡山移住交流の会カモミール	岡山県	水害により被害を受けた親子への援助及び地域との連携事業	岡山県 岡山市	703,000
SOSU	岡山県	被災母児に寄り添う居場所をつくろう！ ～音楽と文化体験にあふれるサロンで継続した支援を実施～	岡山県	561,610
特定非営利活動法人 鍼灸地域支援ネット	滋賀県	避難所等にてストレスを抱える児童への小児はりや保護者への鍼灸マッサージ活動	岡山県 倉敷市	500,000
一般社団法人 岡山県助産師会	岡山県	親子・カップル・みんなで学んで体験し命を育む支援事業	岡山県	562,000
一般社団法人 SCGS	岡山県	MABI STUDENT FES	岡山県 倉敷市	1,000,000
Act For Nanyo Kids	愛媛県	西日本豪雨災害にあった子どもたちの心に寄り添う	愛媛県 南予	950,000
一般社団法人 OPEN JAPAN	宮城県	夏休みこども体験プログラム	愛媛県 西予市	630,378
岡大教育学生ボランティア	岡山県	「出張！おかだい（岡大）教室」（被災児童生徒の居場所づくり）	岡山県	440,200
岡山子育て応援団パピママ	岡山県	子どもたちへの心のケア	岡山県 倉敷市	973,900
認定特定非営利活動法人 ひろしまチャイルドライン 子どもステーション	広島県	子どもに笑顔と安心を～子どもの気持ちに寄り添う継続体制づくり～	広島県	574,000
公益財団法人 ジョイセフ	東京都	広島県呉市天応区：被災女性・母子の安全で安心できる居場所作りと心のケア	広島県 呉市	790,000
一般社団法人 孫育て検定協会	広島県	内の子も外の子も共に地域の宝～祖父母パワーで被災地子ども遊び寺子屋～	広島県 広島市	650,000
特定非営利活動法人 呉こどもNPOセンターYYV	広島県	夏休み星空映画会「実写版忍たま乱太郎」	広島県 呉市	986,320
一般社団法人 パパフレンド協会	広島県	「子ども達の笑顔を守る」プロジェクトの延長戦！点から面の支援で地域の元気へ～みんなで遊ぼう！考えて動いてストレス発散&免疫強化&防災・減災学習！～	広島県	979,000
一般社団法人 体力メンテナンス協会	愛媛県	平成30年豪雨災害で被災した大洲市のママへのトータルケアプログラム	愛媛県 大洲市	313,000
認定特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク	兵庫県	倉敷市岡田小学校の教育活動正常化にかかわる支援活動	岡山県 倉敷市	500,000
特定非営利活動法人 RAY of HOPE	岩手県	災害地での子ども参加型花火大会の実施	広島県 安芸郡	142,307
特定非営利活動法人 だっぴ	岡山県	7月豪雨災害により被災した子どもたちへの支援情報の集約と発信事業	岡山県	1,000,000
災害で生活が変わった子供を支援する会	広島県	小さな勇者を応援しよう！！水害に立ち向かった子どもたちへ	広島県 広島市	325,080
遊び場を考える会	岡山県	プレーパーク活動による子どもの心のケア ～子どもが「遊び育つ力」を育むことを支える遊び場づくり～	岡山県	999,918
遊ぼう会ぶらす	広島県	三原市本郷地区における子どもの居場所づくりと母子サポート事業	広島県 三原市	912,000
社会福祉法人 三原市社会福祉協議会	広島県	遊viva学viva三原	広島県 三原市	1,000,000
認定特定非営利活動法人 アトピッチ地球の子ネットワーク	東京都	平成30年7月豪雨(西日本豪雨)アレルギー患者・災害弱者支援活動	岡山県 倉敷市	1,000,000

2019年度は



2017年度、2018年度の災害緊急助成の経験を踏まえ、災害を起因として困難な課題を抱える子どもの支援を、緊急時によりタイムリーに行えるような枠組みに変更します。災害が起こった際に、すぐに助成の募集が行えるように、年度当初に応募要項を決定・公開しています。

2018年度 決算報告

◎ 貸借対照表の要旨(2019年3月31日現在)

		科目	金額
資産の部	1	流動資産	65,114,285
		現金預金	64,801,574
		貯蔵品	312,711
	2	固定資産	336,775,063
		特定資産(事業積立資産)	334,388,146
		その他固定資産(ソフトウェア)	2,386,917
	資産の部合計		401,889,348

		科目	金額
負債の部	1	流動負債	13,505,357
		未払金	13,499,910
		預り金	5,447
	負債の部合計		13,505,357
正味財産の部	1	指定正味財産 (うち特定資産への充当額)	334,388,146 (334,388,146)
		2	一般正味財産
	正味財産の部合計		388,383,991
	負債及び正味財産合計		401,889,348

◎ 正味財産増減計算書の要旨(2019年3月31日現在)

		科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部	1. 経常増減の部	(1) 経常収益	144,625,034	140,385,529	4,239,505
		受取寄付金	143,505,429	136,487,521	7,017,908
		受取寄付金	21,402,990	6,293,645	15,109,345
		受取寄付金振替額	122,102,439	130,193,876	-8,091,437
		雑収益	1,119,605	3,898,008	-2,778,403
		(2) 経常費用	143,881,341	139,647,439	4,233,902
		事業費	124,625,034	120,385,529	4,239,505
		支払助成金	44,804,951	47,828,994	-3,024,043
		給料手当	20,624,170	21,647,229	-1,023,059
		委託費	10,561,650	10,785,671	-224,021
		制作費	11,112,342	8,771,426	2,340,916
		賃借料	8,940,000	8,676,625	263,375
		その他事業費(通信運搬費、支払負担金など)	28,581,921	22,675,584	5,906,337
		管理費	19,256,307	19,261,910	-5,603
	給料手当	5,156,038	5,411,811	-255,773	
	賃借料	1,593,844	2,238,182	-644,338	
	制作費	1,242,406	2,990,376	-1,747,970	
	委託費	5,984,115	3,713,278	2,270,837	
	法定福利費	837,193	854,177	-16,984	
	その他事業費(ソフトウェア償却費、報酬など)	4,442,711	4,054,086	388,625	
	評価損益等調整前当期経常増減額	743,693	738,090	5,603	
	評価損益等計	0	0	0	
	当期経常増減額	743,693	738,090	5,603	
	2. 経常外増減の部	(1) 経常外収益	0	0	0
		(2) 経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		他会計振替前当期一般正味財産増減額	743,693	738,090	5,603
税引前当期一般正味財産増減額		743,693	738,090	5,603	
当期一般正味財産増減額		743,693	738,090	5,603	
一般正味財産期首残高		53,252,152	52,514,062	738,090	
一般正味財産期末残高	53,995,845	53,252,152	743,693		
II. 指定正味財産増減の部	受取寄付金	150,000,000	150,000,000	0	
	一般正味財産への振替額	-122,102,439	-130,193,876	8,091,437	
	当期指定正味財産増減額	27,897,561	19,806,124	8,091,437	
	指定正味財産期首残高	306,490,585	286,684,461	19,806,124	
指定正味財産期末残高	334,388,146	306,490,585	27,897,561		
III. 正味財産期末残高			388,383,991	359,742,737	28,641,254

財団概要

名称	公益財団法人 ベネッセこども基金	
所在地	〒206-8686 東京都多摩市落合1-34	
設立年月日	2014年（平成26年）10月31日 ※公益財団法人移行日：2015年（平成27年）4月1日	
役員		
代表理事・理事長	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
代表理事・副理事長	福原 賢一	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
理事	耳塚 寛明	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 学部特任教授
理事	小見山 智恵子	東京大学医学部附属病院 副院長 看護部長
理事	青柳 光昌	一般財団法人社会的投資推進財団 代表理事
理事	岡田 晴奈	株式会社ベネッセホールディングス取締役 兼 上席執行役員 グローバルこどもちゃれんじカンパニー長
監事	尾尻 哲洋	税理士
評議員		
評議員	高野 一彦	関西大学社会安全学部・ 大学院社会安全研究科 教授
評議員	宮城 治男	特定非営利活動法人エティック 代表理事
評議員	西村 洋	株式会社ベネッセホールディングス執行役員 社長室長

※2019年7月現在

2019年7月発行
発行：公益財団法人 ベネッセこども基金
写真 表紙：岩崎美里
座談会：蜂谷秀人

アートディレクション：細山田光宣（株式会社 細山田デザイン事務所）
デザイン：鎌内文（株式会社 細山田デザイン事務所）
印刷・製本：株式会社 協同プレス

理事長ごあいさつ

特集1【助成事業】

特集2【自主事業】

活動概況

自主事業・助成事業

決算報告

財団概要



公益財団法人 ベネッセこども基金

<https://benesse-kodomokikin.or.jp>

公益財団法人ベネッセこども基金の活動全体を紹介するサイトです。助成の応募情報などもこちらからご覧ください。



子どもの安全 サポーターズひろば



<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/anzen/index.html>

子どもが自らを守る力を伸ばしたい、子どもの安全を見守る地域づくりに取り組みたい、そんな思いをもつ皆さんのための安全活動支援サイトです。

エール & リンク



<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/yellandlink/index.html>

発達が気になるお子さまをお持ちの保護者の方や、そのサポートに取り組む方々を応援する発達障がい支援サイトです。

親子でチャレンジ国際理解！ ちびっこおえかき コンテスト



<http://chibikko-oekaki.org>

ベネッセこども基金と認定NPO法人グッドネーバース・ジャパンが共同事業として行っている、親子で国際理解について学ぶ教育プログラムの専用サイトです。



THIS IS
MECENAT
2019

親子でチャレンジ国際理解！ ちびっこおえかき コンテスト



- ・親子でチャレンジ国際理解！ちびっこおえかきコンテスト
- ・発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」が、芸術・文化支援による豊かな社会づくりの取り組みとして「This is MECENAT 2019」に認定されました！



「スマートフォン・インターネット安全教室」実施プログラムが、教育現場で役立つ優秀な教材を表彰する消費者教育教材資料表彰2019優秀賞を受賞しました！



ベネッセこども基金公式Facebook

<https://www.facebook.com/benessekodomokikin2014/>



公益財団法人 ベネッセこども基金